

決算説明会

IMV、売上高・利益ともに5期連続で過去最高を更新 主力DSS事業が日本や欧州の航空宇宙・防衛向けを中心に好調

提供：IMV株式会社 2025年9月期決算説明

開催日 2025/11/19

公開日 2025/11/26



IMV株式会社 (7760)

東証スタンダード 精密機器

☆ フォロー

Index

SECURE THE FUTURE ➞
IMVが見守る未来

Index

1. 2025年9月期決算サマリー

2. 中期経営計画の見直し

3. 各種の取り組み

4. Appendix

柿原正治氏：IMV株式会社取締役、経営企画本部長の柿原です。本日はお忙しい中、弊社決算説明会にお集まりいただき、誠にありがとうございます。また、日頃より弊社の事業に多大なるご理解とご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

本日の流れです。私から2025年9月期の決算についてご説明した後、中期経営計画の見直しや各種取り組みについてお話しします。

・売上高・利益の両面において5期連続で過去最高を更新
・受注・引き合いとも継続して好調、26/9期に向けて堅調な見通し

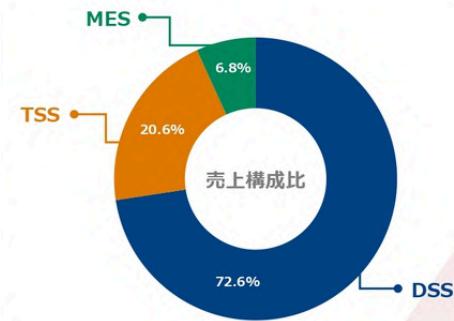
売上高
前期比 +17.0%
17,941百万円

営業利益
前期比 +25.3%
2,315百万円

EBITDA
前期比 +23.1%
2,991百万円

セグメント別売上	24年9月期	25年9月期	前期比
DSS 振動シミュレーションシステム	10,879	13,021	+19.7%
TSS テスト&ソリューションサービス	3,149	3,687	+17.1%
MES メジャリングシステム	1,311	1,232	△6.0%

(単位：百万円)



© IMV Inc.

4

2025年9月期の決算サマリーについてご説明します。

売上高・利益ともに過去最高を更新し、極めて好調な決算を達成しました。また、足元の受注および引き合いは引き続き好調であり、進行期も堅調な見通しを立てています。

売上高は前期比プラス17.0パーセントの179億4,100万円、営業利益は23億1,500万円、EBITDAは29億9,100万円と前期から大きく伸び、5期連続の増収増益を達成しました。

セグメント別売上は、スライド下部の表にまとめています。主力事業であるDSSとTSSは前期から大きく売上を伸ばした一方で、MESは海外向け地震計の伸び悩みにより減収となりました。詳細については、以降のスライドでご説明します。

トピックス（事業）

| 新規試験所の稼働開始



国内外の3ヵ所にて新たな試験所を開設、稼働を開始した。大阪本社には多目的試験所を、埼玉県入間市の日本高度信頼性評価試験センター(e-TCJ)にはEMC試験専用棟を新設。航空宇宙・防衛産業を中心に多くの受注・引き合いがあり、稼働率・予約率ともに非常に高い。ベトナム ホーチミン市でも試験所を新設し、ベトナム国内でワンストップ試験サービスを提供できる体制を強化した。

| 予知保全



機械の状態監視に革命をもたらす新世代の振動診断ユニット「VD-unit」をリリース。これまで監視が困難であった設備機械や設置を諦めていたケースに対しても、最適な状態監視を行うことが可能となった。

| ブランディング



ブランディングにも力を入れており、25年9月からは「進撃の巨人」とコラボレーションした広告を展開。大阪梅田やJRの列車内に掲示を行い、SNS等で大きな反響を得た。引き続き採用活動・IR・SRなど、対外発信にも注力していく。

事業トピックスを3つご用意しました。1つ目は、TSS事業の競争力を高めるため、大阪市、埼玉県入間市、ベトナムのホーチミン市という3ヶ所に、新たな試験所を開設しました。

このうち、大阪の多目的試験所と入間のEMC試験専用棟は、航空宇宙・防衛産業といった成長分野のお客さまから多くの受注や引き合いをいただいており、稼働率・予約率ともに非常に高い水準で推移しています。

2つ目は、MES事業についてです。予知保全のための状態監視ユニット「VD-unit」をリリースしました。このユニットは、生産設備の振動を簡単に監視できることを特徴としており、設備の劣化や故障の前兆を把握することで、生産性向上に貢献するものとして期待されています。

3つ目は、広報活動です。今年9月より、人気作品『進撃の巨人』とコラボレーションした広告を展開しています。大阪梅田やJRの列車内に掲示し、SNSなどで大きな反響を得ることができました。今後も、より幅広い層への認知度拡大を目指し、さまざまな情報発信に注力していきます。

決算概要（連結）①

・増収効果が牽引し各段階利益も増加
・EPSが前年同期比+37.1%

	24年9月期	25年9月期	増減	
売上高 (百万円)	15,340	17,941	+2,600	売上高 (+) 国内、欧州でDSSが好調 (-) MESは前期比減収
営業利益 (百万円) 営業利益率 (%)	1,847 12.0%	2,315 12.9%	+467 +0.9pt	利益 (+) 粗利率の高い案件の増加 (+) 生産プロセスの最適化や新サービスの提供 (-) 一部部材の高騰 (-) 米国関税の影響が約16万USD
経常利益 (百万円) 経常利益率 (%)	1,853 12.1%	2,569 14.3%	+716 +2.2pt	利益 (+) 粗利率の高い案件の増加 (+) 生産プロセスの最適化や新サービスの提供 (-) 一部部材の高騰 (-) 米国関税の影響が約16万USD
当期純利益 (百万円) 当期純利益率 (%)	1,428 9.3%	1,935 10.8%	+507 +1.5pt	利益 (+) 粗利率の高い案件の増加 (+) 生産プロセスの最適化や新サービスの提供 (-) 一部部材の高騰 (-) 米国関税の影響が約16万USD
EPS (1株当たり当期純利益) (円)	88.75	121.68	+32.93	(-) 人的資本に関する投資増加
ROE	14.7%	17.5%	+2.8pt	

(単位: 百万円)

© IMV Inc.

6

決算の詳細についてお話しします。

前スライドと重複しますが、売上高は179億4,100万円、前年同期比17.0パーセント増と、非常に力強い伸びを示しました。これは、主力であるDSSが国内および欧州において、EVや航空宇宙・防衛関連の需要が非常に好調だったことが影響しています。

利益については、増収効果によって営業利益、経常利益、当期純利益のすべてにおいて前期から改善しました。

当期は部材の高騰や米国関税の影響、人的資本に関するコストの増加がありました。粗利率の高い高付加価値案件の獲得や生産プロセスの見直しにより、利益を大きく押し上げる結果となりました。

決算概要（連結）②

・新規試験所の新設を中心に設備投資額が増加
・前年同期と比較して株価が2.5倍以上に

	24/9期	25/9期	増減
設備投資額 (百万円)	1,046	1,498	+452
減価償却費 (百万円)	583	676	+93
研究開発費 (百万円)	734	792	+58
期末株価 (円)	692	1,862	+1,170
期末時価総額 (自己株式を除く) (百万円)	11,007	29,628	+18,622

(単位：百万円)

設備投資額および研究開発費の推移



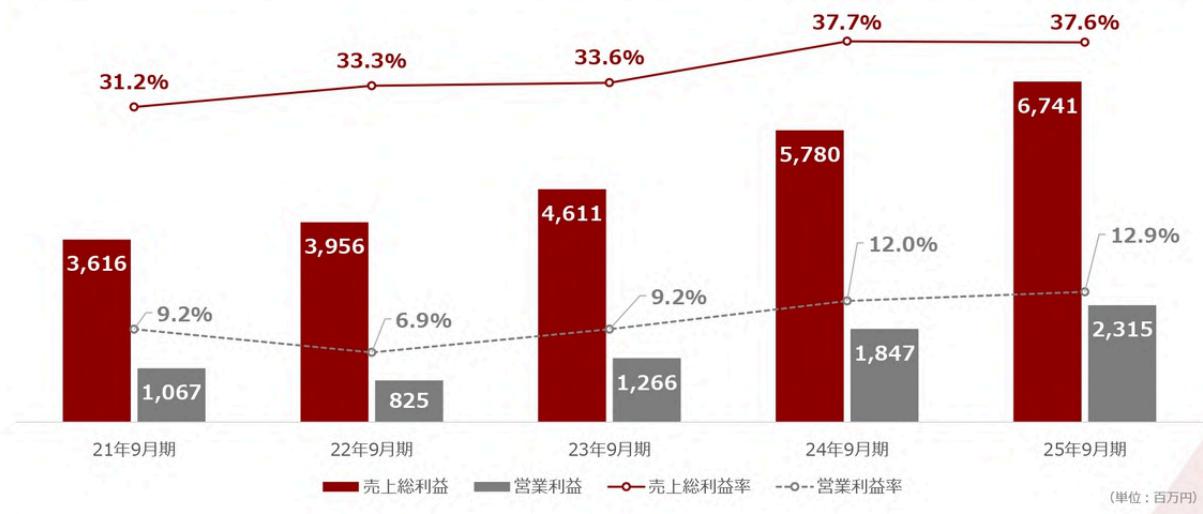
成長に向けた投資状況と市場からの評価についてご説明します。

当期は試験所の新設を中心に設備投資額が前期から増加し、14億9,800万円となりました。また、将来の競争力強化に直結する研究開発費も5,800万円増え、7億9,200万円となっています。

株価は前期末の692円から当期末には1,862円と大きく上昇し、期末の時価総額は296億2,800万円となりました。これは、当社の成長戦略と好調な業績が市場に浸透してきた結果であると認識しています。

売上総利益および営業利益の推移

セールスマックスの変化や利益率の高い案件の獲得などで、利益率は高水準を維持



© IMV Inc.

8

スライドのグラフは、過去5年間の利益の推移を示したものです。棒グラフで示されている売上総利益と営業利益は、5年間で順調に増加しています。

また、折れ線で示されている各利益率について、当期は材料費や輸送費の高騰といったコスト面で非常に厳しい状況にありました。

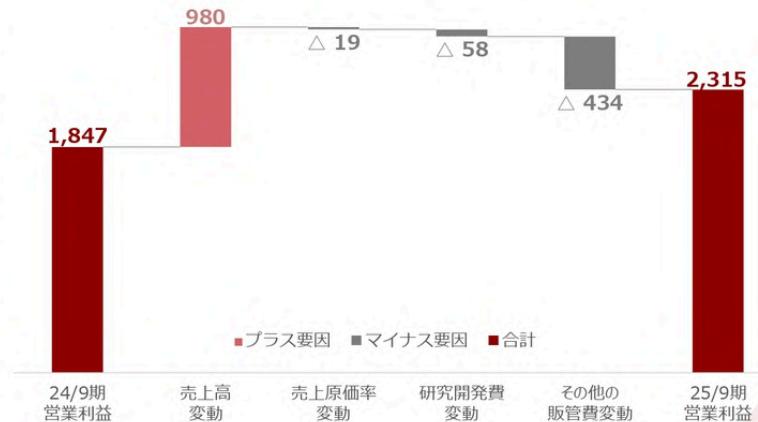
しかし、セールスマックスの変化や粗利率の良い案件の影響により、売上総利益率は前期とほぼ変わらない高水準を維持することができました。

営業利益増減要因

- ・増収効果が販管費の上昇を上回ることで営業利益が増加
- ・販管費は増収に伴う適正な範囲内の上昇

24/9期 営業利益	1,847
売上高変動による影響	+980
売上原価率変動による影響	△19
研究開発費変動による影響	△58
その他の販管費変動による影響	△434
25/9期 営業利益	2,315

(単位：百万円)



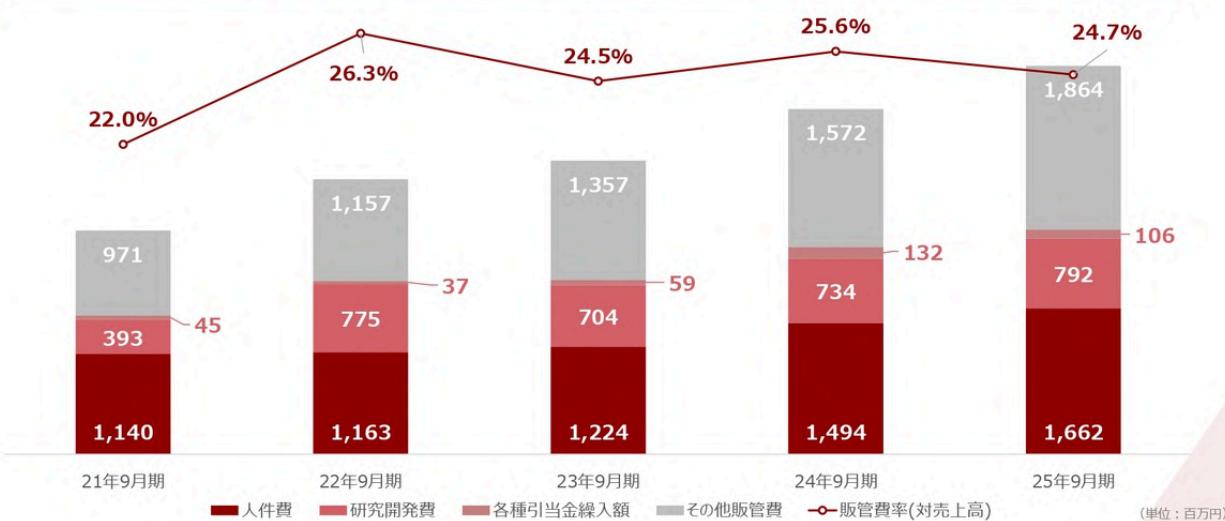
こちらのスライドでは、営業利益の増減要因を分析しています。ご覧のとおり、増収効果が販管費の上昇を上回り、営業利益を23億1,500万円まで引き上げることができました。

販売費及び一般管理費の内訳

販売費及び一般管理費の内訳

SECURE THE FUTURE
IMVが見守る未来 ➞

- ・売上の増加に伴い販売費が増加するも、販管費の売上高に占める割合は減少



ています。

キャッシュフローおよび資本の状況

/ キャッシュフローおよび資本の状況

SECURE THE FUTURE
IMVが見守る未来 ➞

・営業キャッシュ・フローの大幅増によりフリー・キャッシュ・フローも伸長
・投資も継続して実行

	24/9期	25/9期	増減
営業キャッシュ・フロー	2,006	3,848	+1,842
フリー・キャッシュ・フロー	972	2,646	+1,592
現金及び現金同等物残高	2,518	4,876	+2,358
自己資本	10,217	11,884	+1,666
自己資本比率	53.0%	50.9%	△2.1pt

(単位:百万円)

キャッシュフローの推移

要因	額
現金及び現金同等物期首残高	2,518
営業CF	3,848
投資CF	1,284
財務CF	-247
現金及び現金同等物期末残高	4,876

* 差額は現金及び現金同等物に係る換算差額

© IMV Inc.

11

キャッシュフローと資本の状況についてです。営業キャッシュ・フローは好調な業績の影響で当期純利益や契約負債が増加し、38億4,800万円となりました。

試験所の増強などにより投資キャッシュ・フローも増加しましたが、フリー・キャッシュ・フローは26億4,600万円まで増やすことができました。

現金及び現金同等物の残高は48億7,600万円、自己資本は118億8,400万円と引き続き高い水準を維持しており、当社の財務基盤が安定していることを示しています。

資産の状況

- ・多目的試験所開設に伴い固定資産が増加
- ・借入金の比率は低率を維持し、財務健全性は良好



資産の状況です。当期の資産合計は233億300万円と、前期比20パーセントを超える大幅な増加となりました。

この背景には、好調な受注を受けたことによる営業債権の増加と、積極的な設備投資による有形固定資産の増加があります。借入金の比率は低く、財務健全性は良好であると認識しています。

配当金および配当性向

安定配当から、利益と連動した株主還元方針への転換



	21年9月期	22年9月期	23年9月期	24年9月期	25年9月期	26年9月期(予想)
1株あたり配当金(予定額) (円)	10	10	12	20	30	30
EPS(1株当たり当期純利益) (円)	57.52	65.42	69.11	88.75	121.68	116.28
配当性向(連結) (%)	17.4	15.3	17.4	22.5	24.7	25.8

© IMV Inc.

13

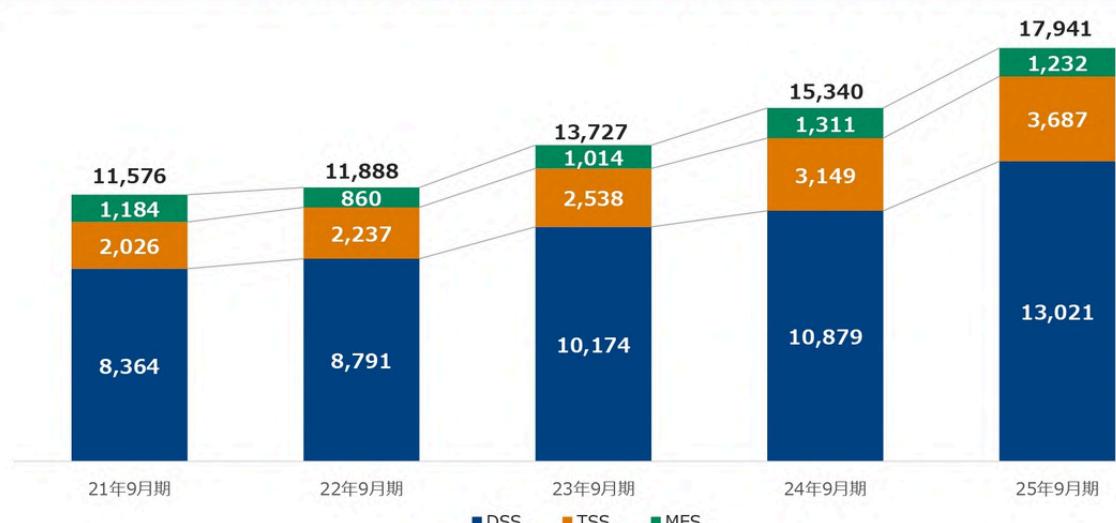
当期の株式配当についてです。昨年発表した利益と連動した株主還元方針に基づき、当期の配当は前年度から10円増配し、1株あたり30円を予定しています。

事業別 売上高推移

事業別 売上高推移

SECURE THE FUTURE
IMVが見守る未来 ➞

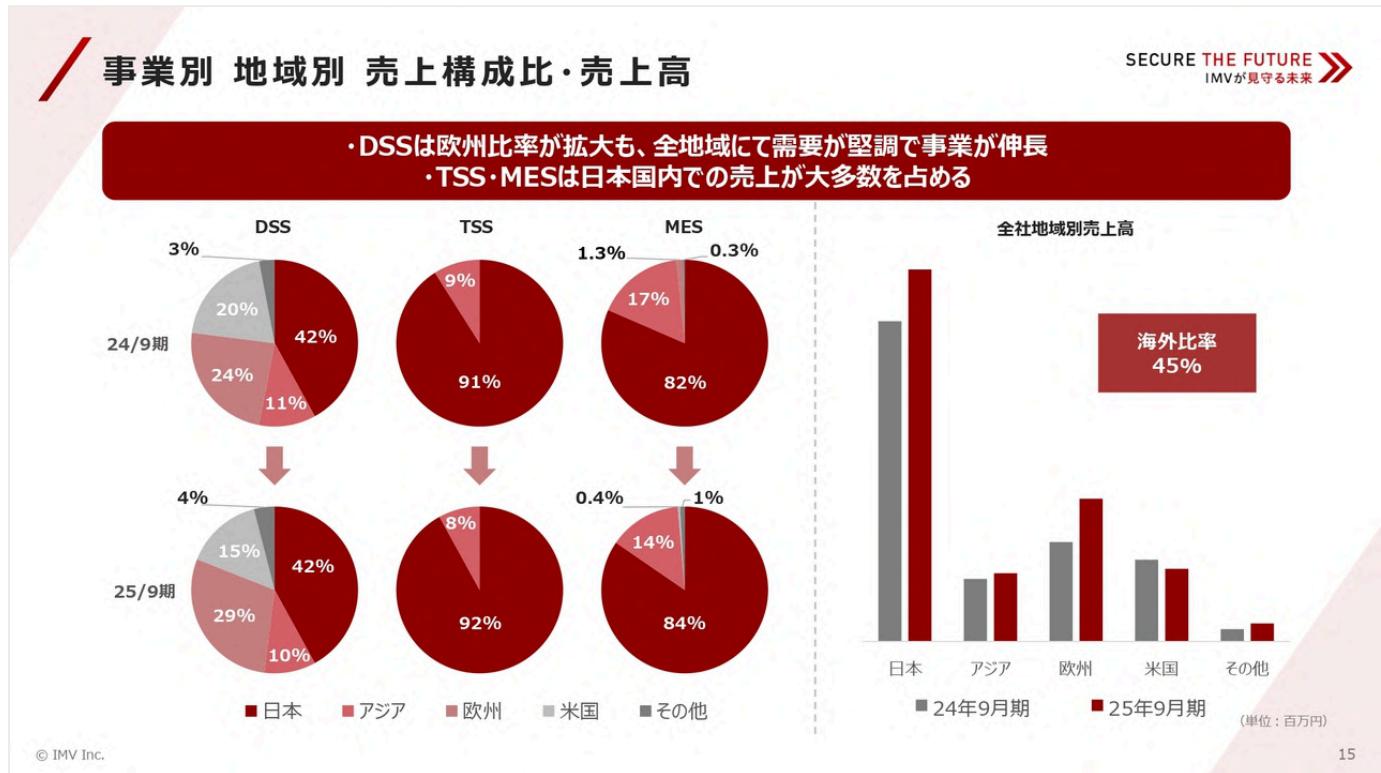
- ・DSSの売上伸長が全体を牽引し大幅な增收
- ・TSSは継続して事業が拡大傾向、継続的な投資の効果も現れている



© IMV Inc.

14

事業別 地域別 売上構成比・売上高



事業別・地域別の売上構成比と売上高を示しています。

最も特徴的な動きとして、日本国内の売上が前期から大きく伸びた点があります。その背景には、主力のDSS事業において、国内の自動車関連および防衛関連からの大型案件に恵まれたことが挙げられます。

一方、国内の伸びと同様に、海外でも売上を順調に拡大することができました。その結果、売上全体に占める海外比率は前年と同じく45パーセントと高い水準を維持しており、世界的な需要を取り込んでいると考えています。

事業別 受注高・生産高・受注残高

・受注高>生産高の流れが続き、受注残高が増加
 ・工場の生産エリア拡大を行い、生産キャパシティ増加

	受注高			生産高			受注残高		
	24/9期	25/9期	増減	24/9期	25/9期	増減	24/9期	25/9期	増減
DSS	14,952	16,760	+ 12.1%	10,784	14,048	+30.3%	10,682	14,420	+35.0%
TSS	3,400	3,864	+ 13.6%	3,142	3,693	+17.5%	564	741	+31.4%
MES	1,195	1,133	△ 5.2%	1,312	1,232	△6.1%	400	301	△24.8%
全社	19,548	21,757	+11.3%	15,239	18,974	+24.5%	11,646	15,463	+32.8%



© IMV Inc.

16

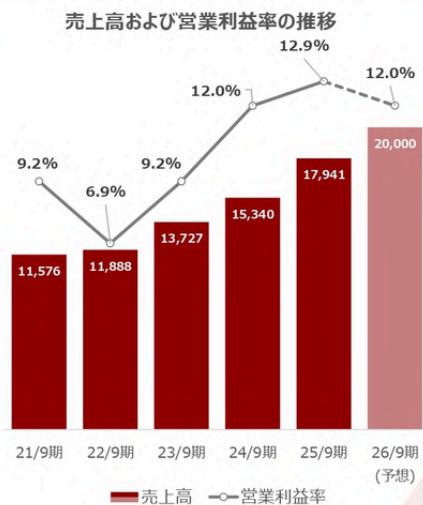
こちらのスライドでは、事業ごとの受注高、生産高、受注残高の状況を示しています。当期は工場の生産キャパシティを増加させ、生産高を大幅に伸ばすことができました。

しかし受注は引き続き好調で、生産高を上回る勢いで伸びています。その結果、期末の受注残高は154億6,300万円となり、過去最高水準で積み上がっています。

業績の見通し（通期・連結）

・新規受注高の増加を受け、26/9期は売上高20,000百万を見込む
 ・必要な設備投資や研究開発活動を継続することで更なる競争力の向上を図る

	25年9月期 実績	26年9月期 予想	増減
売上高(百万円)	17,941	20,000	+ 11.5%
営業利益(百万円)	2,315	2,400	+ 3.7%
経常利益(百万円)	2,569	2,400	△6.6%
当期純利益 (親会社株主帰属) (百万円)	1,935	1,850	△4.4%
売上高営業利益率(%)	12.9	12.0	△0.9pt
1株当たり当期純利益(円)	121.68	116.28	-
1株当たり配当金(円)	30.0	30.0	-



© IMV Inc.

17

進行期である、2026年9月期の業績見通しです。

売上高は前年比11.5パーセントの増収を見込み、初の200億円台を目指しています。この見通しは、前スライドで示した高水準の受注残高および足元の受注予測を主な根拠としています。

営業利益は24億円、前年比3.7パーセントの増益を見込んでいます。一方、経常利益と当期純利益はやや減益の予想です。これは、DSS事業の海外比率が非常に大きく、為替レートの影響を保守的に考慮したためです。

売上高営業利益率は12.0パーセント、1株当たり当期純利益は116円28銭を予想しています。1株当たり配当金は、当期と同じ30円に据え置く予定です。

経営指標の修正

・安定した収益力と資本効率の高さを維持し、持続可能な成長を実現
 ・足元の受注状況が堅調に推移していることから経営指標を修正

経営指標	24年9月期 実績	25年9月期 実績	26年9月期	27年9月期
売上高 (連結) (修正前)	15,340百万円	17,941百万円 (16,500百万円)	20,000百万円 (17,200百万円)	20,500百万円 (18,000百万円)
EBITDA (修正前)	2,455百万円	2,991百万円 (2,594百万円)	3,150百万円 (2,774百万円)	3,600百万円 (3,065百万円)
EPS (修正前)	88.75円 (88.75円)	121.68円 (95.46円)	116.28円 (101.08円)	130.65円 (108.42円)
ROE	現在のROE水準を保ちつつ、事業を伸長させていく			

© IMV Inc.

19

それでは、中期経営計画の見直しについてご説明します。

今回の決算結果、および足元の受注や引き合い状況が堅調に推移していることを受け、全期間にわたって中期経営計画の経営指標を修正しました。

中期経営計画最終年度である2027年9月期の売上高目標を、180億円から205億円へ上方修正しています。

EBITDAは36億円、EPSは130円65銭へ上方修正しました。

これにより、2024年9月期の実績を基準とすると、中期経営計画期間を通じてEBITDAおよびEPSで145パーセント以上の成長を目指すことになります。

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

・安定的な額の配当から、利益と連動した株主還元方針へ

	19/9期	20/9期	21/9期	22/9期	23/9期	24/9期	25/9期	26/9期 (予定)
配当金	8.5円	8.5円	10.0円	10.0円	12.0円	20.0円	30.0円	30.0円
連結配当性向	37.6%	43.7%	17.4%	15.3%	17.4%	22.5%	24.7%	25.8%
自己株式取得（額）	-	-	-	-	-	243,837千円	-	- (未定)

従来

額を基準に安定的な配当を重視

業績がふるわない場合にもなるべく
定期的に株主の皆さまへお配りするため

今後

最終の利益（純利益額）と連動した配当を重視

臨機応変に自社株買いを実施

獲得した利益をより積極的に株主の皆さまへお配りするため

中期経営計画の修正に伴い、昨年発表した資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応も更新しました。

更新内容は配当予定の数値であり、2025年9月期の配当を当初の24.0円から6.0円増配し、30.0円としました。また、2026年9月期についても、引き続き30.0円の配当を維持する予定です。

極上のサービス提供 定期点検・校正

- 定期点検と装置校正の積極的な提案を実施
- 装置を正常な状態に維持することで、試験品質向上を実現

定期点検推進

装置のダウンタイム低減

計画的な保守で、故障等による試験中断リスクを低減し、お客様の生産性向上・開発期間の短縮に貢献

装置校正の推進

ISO17025校正サービス強化

試験精度の向上に寄与
認証校正により、お客様の試験品質を保証する

ISO17025校正数



ここからは、各種取り組みについてご説明します。1つ目は、サービスに関する取り組みのご紹介です。このサービス事業は、中期経営計画の重点戦略の1つでもあります。

我々は単に製品販売にとどまらず、「極上」と呼ばれるサービスをお客さまに提供し、お客さまにとってなくてはならない存在、すなわちベストパートナーとなることをを目指し、さまざまな取り組みを行っています。

その一環として、お客さまの装置を常に最適な状態でお使いいただけるよう、定期点検や装置の校正を積極的に提案しています。この取り組みにより、校正数は3倍に増加し、故障による試験の中断が大幅に減少したと報告を受けています。

極上のサービス提供 トレーニング・教育

- 少子高齢化による現場を知るヒトの減少と技術伝承不足という課題
→振動に関する知識の向上を目的としたお客様向けセミナーを開催
- 実施満足度は100%を達成

- お客様向けセミナーの効果
 - お客様の技術力維持と向上に貢献
 - 評価試験コンサルタントとしてお客様との繋がりを強化し製品開発パートナーへの進化促進



座学セミナー



実機を用いたセミナー



© IMV Inc.

23

正しい試験方法や試験の品質向上を目的に、オンサイトおよびオフサイトで技術セミナーを定期的に開催しています。お客さま側は人材不足により技術伝承が進みにくい状況である中、当社のセミナーは大変好評をいただいています。

極上のサービス提供　迅速な対応・試験サポート

極上のサービス提供

迅速な対応・試験サポート

SECURE THE FUTURE
IMVが見守る未来 ➞

- 2025年8月、横浜に新拠点を設置
- 2026年、アメリカの西海岸（アナハイム）に新拠点の開所を予定
 - 今後増加が見込まれるUSA向け装置についても、お客様に極上のサービスを提供

国内サービス拡充

迅速な対応の実現

お客様へ適時メンテナンス部品提供
オンラインメンテナンスの迅速化
顧客対応品質の向上と顧客満足度の向上

グローバルサービス強化

あらゆる地域で製品開発を止めない

海外サービス体制の強化と海外市場展開
海外売上高のさらなる伸長



© IMV Inc.

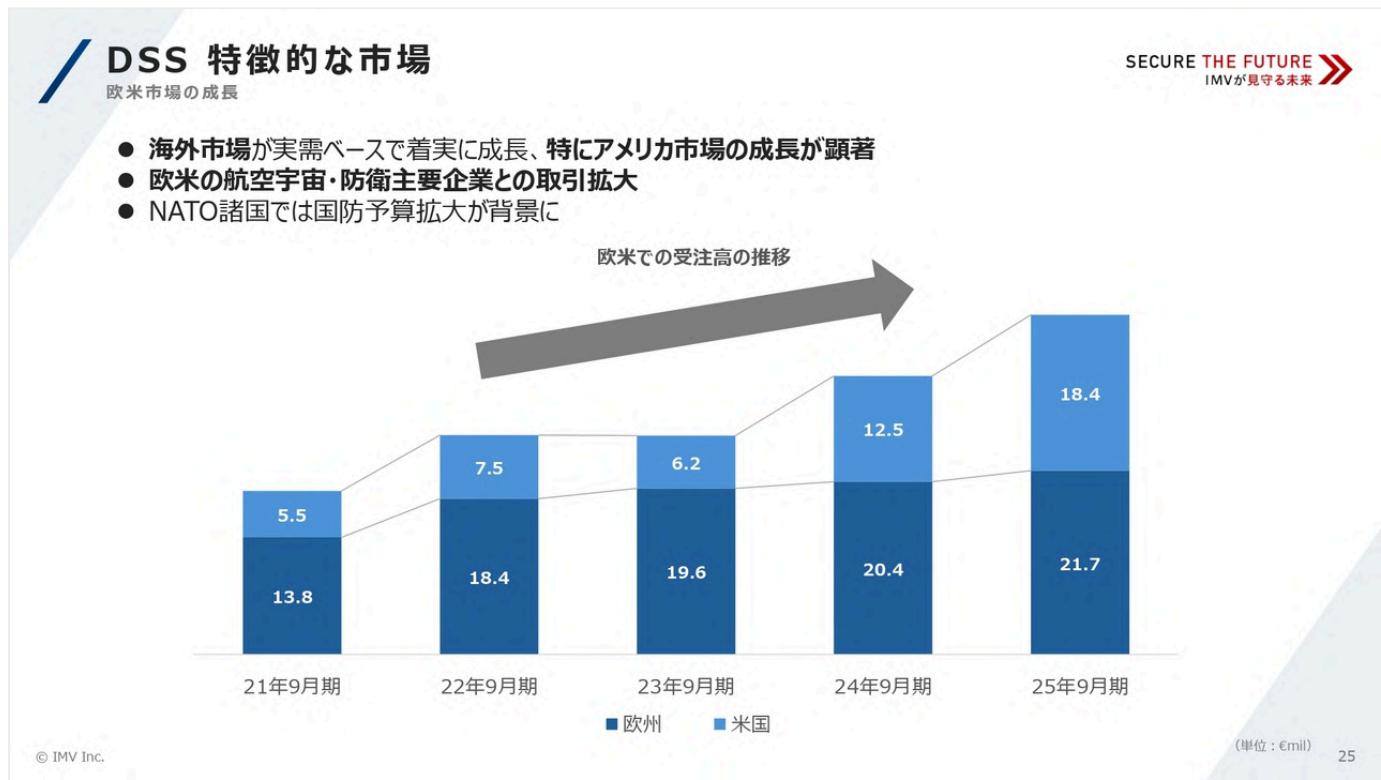
24

これまで、当社の米国におけるサービス拠点はミシガン州デトロイトにありました。こちらは、自動車関連のお客さまをターゲットとしたロケーションとなっています。

しかし、最近は航空宇宙関連のお客さまが増加しており、よりお客様に近い場所で迅速なサービスを提供できる体制を整えるため、2026年の早い段階で西海岸に新たな拠点を開設する予定です。

広大な米国において、生産性と利便性を向上させるため、今後も拠点を拡大していく必要があると考えています。

DSS 特徴的な市場 欧米市場の成長



欧米市場の動向についてお知らせします。スライドのグラフは、売上高の推移を通じて欧米市場の成長を示しています。

中でも、米国市場の伸びが顕著に増えていることがおわかりいただけるかと思います。この背景には、欧米の航空宇宙・防衛主要企業との取引拡大が挙げられます。

DSS 特徴的な市場 欧米の航空宇宙・防衛産業

DSS 特徴的な市場

欧米の航空宇宙・防衛産業

SECURE THE FUTURE
IMVが見守る未来

- **大型装置受注の大半が航空宇宙・防衛産業向け**
 - 試験所での用途も航空宇宙・防衛向けがメイン
- **自国防衛意識の高まりや国防予算拡大が作用**
 - NATO：国防予算目標を2035年までにGDP比 2%から5%に引き上げる
→今後も両分野における需要は継続する見込み

欧米への大型装置の販売(航空宇宙・防衛産業向け)

国	航空宇宙	防衛	試験所	その他
アメリカ	1		2	1(電機)
ドイツ		1	1	1(自動車)
その他	3			

(単位:台)

水冷式大型振動試験機

最大搭載重量500～3,000kgのKシリーズを販売
水冷式は吸気・排気の騒音が発生せず、静音で試験環境を向上



航空宇宙および防衛産業向け市場には、大きく3つの特徴があります。

1つ目の特徴は、要求される装置が大型であることです。人工衛星や長尺製品が対象となるため、大型の振動試験機が必要となります。

スライド右下に記載の当社Kシリーズは、最大搭載質量3トンを許容でき、この大型装置の納入実績が当期の売上を大きく押し上げました。スライドの表に記載のとおり、大型装置受注の大半は航空宇宙・防衛産業向けとなっています。

2つ目の特徴は、極めて高い正確性と安定性が求められることです。自動車部品と比べて試験品は高価であり、人工衛星など代替が利かないものが多いいため、試験のやり直しは許されません。そのため、試験機には常に正確で安定した性能が求められます。

3つ目の特徴は、多くの場合、国家予算の後押しがある点です。国防予算の拡大や国家の成長戦略として宇宙開発を掲げる国が多く、案件の規模が大きく、また、意思決定や実行のスピードも速い傾向があります。

DSS 特徴的な市場 欧米の航空宇宙・防衛産業

航空宇宙・防衛産業への納入実績

Thales Alenia Space Italy社 (イタリア)

同社はフランスの大手電機企業であるThales Groupと、イタリアの航空宇宙・防衛産業大手のLeonardo S.p.S.が共同出資するThales Alenia Space (TAS) の一員。TASはヨーロッパを代表する人口衛星開発・宇宙インフラ企業の一つである。

- 同社より航空宇宙向けの大型振動試験装置を受注し、納品作業を開始
- 同社のSpace Smart Factoryはイタリア国内でも注目されており、2025年10月の開所式には同国のSergio Mattarella大統領も出席した

開所式の様子：

<https://www.youtube.com/watch?v=riKd0rt95A8>
Presidenza della Repubblica Italiana Quirinaleより

動画はQRコードからもご覧いただけます。



納入実績の一例をご紹介します。こちらのスライドは、イタリアのThales Alenia Space Italy社に納品した事例です。

同社は大規模な衛星生産拠点を立ち上げ、その設備の1つとして当社の装置を採用いただきました。このプロジェクトはイタリアの宇宙産業において中心的な役割として注目されており、先月にはイタリア大統領が視察に訪れ、当社の装置もご紹介いただきました。

具体的な受注先の情報については、案件の性格上、公表が困難なケースが多いのですが、今回はお客様のYouTubeチャンネルで当社の装置が紹介されていたことを踏まえ、本日みなさまにご報告しています。

DSS 特徴的な市場 成長の要因

- 長年培ったIMVの振動技術、大手試験所への**豊富な納入実績**
 - 世界四大陸に存在するネットワーク
 - IMVの振動技術を更に活かす航空宇宙・防衛産業の要求を満たす治具サプライヤーとの強固な連携
→ これらの**総合力により適正品質を実現**
- 「海外の航空宇宙・防衛産業」への販売障壁を乗り越え、プレゼンスを確立**



航空宇宙・防衛といったハイエンド市場で評価されるようになった理由は、これら3つの総合力によるものと分析しています。

まずは、長年培ってきたIMV独自の高度な振動技術と知見、さらに国内外の大手試験場への豊富な納入実績が信頼と安心感を与える基盤となっていることです。

また、迅速かつ質の高い顧客対応を可能とするセールスおよびサービスのグローバルネットワークを構築していること、そしてすべてを日本から供給するのではなく、技術力の高いローカルサプライヤーとも連携できる体制を整えたことがあります。

これらの総合力が顧客からの信頼を得たことが、受注増につながった要因だと考えています。

DSS 特徴的な市場 生産能力の増強を実施

- 欧米の航空宇宙・防衛産業に限らず、日本国内でも大型試験装置が盛況
 - 大阪テストラボエリアの一部を大型試験装置生産エリアとして割り当て、生産エリアを拡大
 - 2025年2月から運用を開始した
-
- 生産エリア拡大の効果
 - 期中に生産した大型振動試験機 Kシリーズのうち約40%が新規増設エリアを使用して製造



© IMV Inc.

29

欧米の航空宇宙・防衛産業を中心に、大型機の需要が急激に高まってきました。これらの市場要求に対応するため、今年2月から大型装置の生産エリアを拡大し、生産キャパシティを増強しています。

しかし、受注量は引き続き増加しており、さらなる生産キャパシティの拡大要求が高まりつつあります。

今後の投資

法人の方はこちら

利用規約

プライバシーポリシー

お問い合わせ

- 大阪本社にて「先進技術センター(仮称)」の建設を予定
- 2027年1月頃の稼働開始を目指す

背景・課題

- 多目的試験所・日本高度信頼性評価試験センター(e-TCJ)等、各地の試験所が活況
- 大型試験装置の検査エリア不足
- 装置開発に必要なエリアが手狭に

先進技術センター

- 新規試験所としての活用を中心に、多目的施設としてのづくりや研究開発にも寄与
- 現在抱える課題の解消をねらう

完成予想図



© IMV Inc.

30

大型装置の生産、および特殊な試験に対応できるエリアの拡大を計画しています。完成は2026年9月期以降を予定していますが、このエリアの増床により、生産、テスト、実験といった用途にフレキシブルに活用できることが期待されています。

以上が、本日ご用意した決算説明会の内容となります。ご清聴ありがとうございました。

クリップ

前回の決算ログ

開催日 2025/05/14 公開日 2025/05/20

IMV、2Q累計で3期連続の增收増益、売上高は前年比+21%の大幅増 高利益率案件の獲得等で高水準を維持

提供：IMV株式会社 2025年9月期第2四半期決算説明



[この企業のログ一覧を見る](#)

新着ログ

株式投資をはじめよう！
基礎から学ぶ「決算書・株価チャート」の読み方ガイド



開催日 2025/11/26 公開日 2025/11/26

“良い投資先・銘柄”を見つけるための経営指標・株価指標 初心者が知っておきたい7つの種類を紹介

株式投資をはじめよう！ 基礎から学ぶ「決算書・株価チャート」の読み方ガイド #14



定量実績			
売上高 前年同期 393.0億円 ↓ 395.4億円 (+0.6%)	営業利益 前年同期 10.9億円 ↓ 13.7億円 (+26.6%)	経常利益 前年同期 10.8億円 ↓ 17.1億円 (+58.6%)	中間純利益 前年同期 7.1億円 ↓ 16.7億円 (+134.4%)

ポイント

- 米国の通商政策による影響に加え、金融資本市場の変動や物価上昇の継続など先行き不透明な状態が継続。
- 売上高は、マテリアル事業が減収となつたが、アパレル事業、ブランド・リテール事業を中心とし増収となり、全体として微増収で着地。
- 東京エリア拠点集約プロジェクトがスタート。

© 2025 YAGI & CO., LTD.

開催日 2025/11/26 公開日 2025/11/26

ヤギ、上期は増収増益 アパレル事業、ブランド・リテール事業での気温変動を考慮した企画提案や商品MDが業績に寄与

提供：株式会社ヤギ 2026年3月期第2四半期決算説明



	2026年3月期 第2四半期実績				2025年3月期 第2四半期 実績	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	予算比 (%)	前年比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
売上高	9,322	100.0	93.0	97.0	9,612	100.0
売上総利益	2,313	24.8	95.1	106.6	2,169	22.6
販売管理費	1,702	18.3	94.4	99.1	1,718	17.9
営業利益	610	6.5	97.2	135.5	450	4.7
経常利益	610	6.5	102.3	-	▲396	▲4.1
親会社株主に帰属する当期純利益	396	4.2	99.8	-	▲455	▲4.7
1株当たり当期純利益(円)	51.25	-	-	-	▲58.90	-
EBITDA (営業利益+減価償却費)	718	-	97.8	133.0	539	-

※百万円未満切り捨て

Copyright © 2025 SHOEI CORPORATION All Rights Reserved.

3

開催日 2025/11/25 公開日 2025/11/26

合販売に注力

提供：株式会社ショーエイコーポレーション 2026
年3月期第2四半期決算説明



もっと見る

「精密機器」のログ

今回のポイント

CITIZEN

■ 2025年度第2四半期累計（4-9月）業績概要 増収増益

- 時計事業 北米を中心に“シチズン”と“プローバ”ブランドが計画を上回り好調に推移
北米の増収と自社EC比率向上に加え、販売単価上昇なども寄与し大幅増益
- 工作機械事業 海外市場が堅調に推移

■ 2025年度通期業績予想 上方修正

■ 売上高	3,180億円 ⇒ 3,270億円 (+90億円)
■ 営業利益	200億円 ⇒ 245億円 (+45億円)
■ 経常利益	220億円 ⇒ 290億円 (+70億円)
■ 領会社株主に帰属する当期純利益	200億円 ⇒ 220億円 (+20億円)
■ 想定為替レート	1USD 145円 1EUR 160円 ⇒ 170円

3

開催日 2025/11/12 公開日 2025/11/14

【QAあり】シチズン時計、主力の時計事業が大幅 増益を達成 通期業績予想を上方修正

提供：シチズン時計株式会社 2026年3月期第2四
半期決算説明



② Rigaku 2025年12月期第3四半期連結決算 ハイライト

全社

- 売上は想定範囲内に着地し、3Q累計で前年同期比(YoY)▲4.9%
- 調整後EBITDA/当期利益は、全体的な減収、半導体プロセス・コントロール機器における高GM⁽¹⁾案件の4Qへの集中、戦略投資の継続等によりYoYで大幅減少。業績は3Q大底で4Q回復へ

多目的 分析機器

- 市場サイクル等の要因で3Q累計売上はYoY▲5.3%となるが、3Q(7月-9月)はYoY+19.4%と反転
- 海外売上は、中国を除き累計売上YoY+11%と引き続き順調

半導体 プロセス・ コントロール 機器

- 量産から研究開発需要へのシフトによる4Qへの売上集中により、3Q累計売上でYoY▲5.6%
- 顧客Mix変化等による営業利益率低下は一時的。4Qはボリューム拡大・Mix改善で営業増益を確保へ
- 4Q売上予想のうち最終条件交渉フェーズ案件は約5%まで縮小、業績予想達成の確度は一層高まる

3Qで底打ち。4Qでは大幅売上増と高GM案件の実現により、通期業績予想達成に向けて進捗

1 Gross Margin

© 2025 RIGAKU CORPORATION. ALL RIGHTS RESERVED.

開催日 2025/11/11 公開日 2025/11/19

【QAあり】リガクHD、業績は3Q底打ち、4Qに大 幅改善を見込む AI半導体の広がりが成長の追い風 に、自己株取得で還元も強化



再生医療をあたりまえの医療に
Creating a Future for Regenerative Medicine

2026年3月期 第2四半期（中間期） 決算説明会

株式会社ジャパン・ティッシュエンジニアリング

2025年10月31日



(東証グロース：7774)

© Japan Tissue Engineering Co., Ltd. All Rights Reserved.

開催日 2025/10/31 公開日 2025/11/07

**【QAあり】 J-TEC、2Qは全事業増収・損失縮小
ラボサイト事業やCDMO受託事業拡大により、通
期営業損益の見通しは据え置き**

提供：株式会社ジャパン・ティッシュエンジニアリ
ング 2026年3月期第2四半期決算説明



もっと見る